

「日本語の特徴」～言葉の“ゆれ”～

今回は、言葉の“ゆれ”について考えます。クロイドン校舎には16の学級があります。

今「学級」をどのように読まれたでしょうか。「ガッキュウ」だと思います。読み方だけでなく、言い方も「ガッキュウ」と発音します。文字表記も同様に「がっきゅう」です。しかし、漢字一文字ずつを書き表すと「がくきゅう」です。

「三角形」はどうでしょうか。「三角形」の文字表記は、日本全国どこでも「さんかくけい」です。しかし、口で言い表すときは、普通「サンカクケイ」ではなく「サンカクケイ」と発音します。同様に「水族館」は「すいぞくかん」と書き表し、「スイゾクカン」と発音します。



〈ある日の授業から〉

世代によっては知らない方がいるかもしれませんが、私が小さい頃、“花の中3トリオ”の一人森昌子の「先生」がヒットしました。当時、短髪の彼女は「センセイ センセイ」と歌うのでした。日常「先生」は、「センセー」か「センセエ」と発音します。クロイドン校舎でも、子どもも保護者も先生方も同様に言っています。しかし、文字表記は「せんせい」です。

また、床に落ちてしまった物をつまみあげるような動作を「ひろう（拾う）」と表記し、多くは「ヒロウ」と言いますが、関西の方は「ヒラウ」と言うことがあります。

このように、文字表記と発音が異なる場合があります。また、これにはそれぞれに理由もあります。「学級」や「三角形」や「水族館」の発音の場合は、子音「K」と子音「K」に挟まれた母音「U」が省略されるルールに拠るものです（「学級」→「GAK (U) KYU」、「三角形」→「SANKAK (U) KEI」、「水族館」→「SUIZOK (U) KAN」）。「拾う」の場合は、共通語と方言の違いといえます。

また、現在、私たちが日常使用している言葉の中には、同じ物事や意味でも別の言い方をすることがあります。例えば、「花こう岩」と「みかげ石」があります。これらは同じ物をさしますが、前者は学術語で、後者は一般用語です。「かまど」をご存知でしょうか。



宮城に住む高齢の私の母は、昔「くど」と言っていました。当事務所に大阪ご出身の方がいますが、「くど」とも「へっつい」とも言っていたそうです。これは、方言あるいは新旧世代による違いといえると思います。さらに広げていけば、「テニス」と「庭球」。これは外来語（外国語）と国語（翻訳語）の違いです。「清掃」と「そうじ」。これは漢語と和語の違いです。

以上のように言葉には“ゆれ”と呼ばれる特徴があります。これは“発音のゆれ”と“表記のゆれ”に分けることができます。「花こう岩」「みかげ石」や「かまど」「くど」「へっつい」など後者については“ゆれ”というより、「別語」ととらえた方がよい場合がありますね。また、これは、以前に取り上げた「漢字の『使い分け』」の扱いに似ているところがあります。